

「おそなえ」を 「おさがり」として 「おすそわけ」する

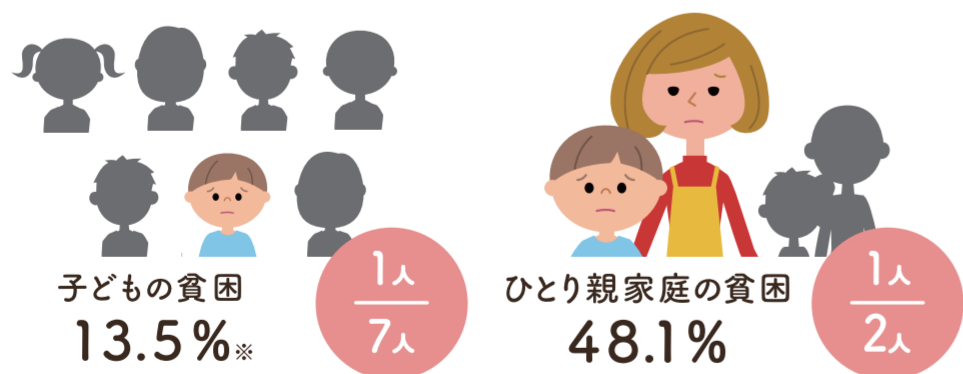


認定NPO法人

おてら
おやつ
クラブ



子どもの貧困問題は見えづらい



※2019年 国民生活基礎調査(厚生労働省)

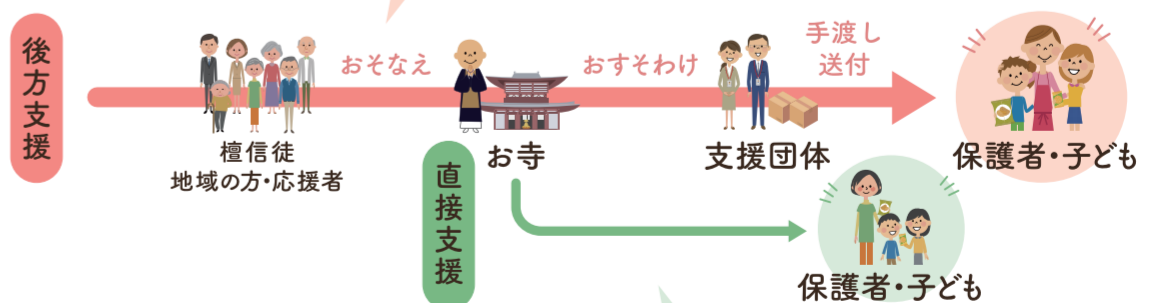
日本の「子どもの相対的貧困率」は2018年時点で13.5%となり、子ども(18歳未満)の7人に1人、実に約280万人の子どもたちが貧困に苦しんでいます。さらに、ひとり親世帯では48.1%、2人に1人が貧困状態にあることを示しています。ところが、実際は身の周りにそのような子どもを見かけないという貧困の見えづらさが、問題の解決を難しくしています。

おてらおやつクラブを支援する



おてらおやつクラブの仕組み

各お寺で預かった「おそなえ」は、それぞれのお寺のペースと量でできるだけ近い支援団体へと「おすそわけ」され、各団体の活動を通じて困りごとを抱える子どもたちの元へ。



直接支援

活動の周知に伴って支援要請の数が増えたことにより、上記の後方支援だけでは支えきれないケースも増加。そこで、匿名配送の仕組みを新たにつくり、全国のお寺からひとり親家庭へと直接「おすそわけ」を届ける支援形態を構築した。

おてらおやつクラブ Webサイト

